

文書課長

金井 所長

多田 達彦

文書課發送日

機密 第二四九 號

主任

昭和二十一年十一月十九日附

附屬 廿九

淨書

正校(原稿) (淨書)



和二十一年十一月十九日起草



0083

發信用執務用	
主信	
附	
甲	
乙	
丙	
丁	
屬	
備考	

管主	受信人名	先付送寫	件名
機密 第二四九 號	中久事部局 志田 總裁	抄	基地規設報告、件
主任	發信人名	名件錄記	外務省
昭和二十一年十一月十九日附	金井 所長		
附屬 廿九			
淨書			
正校(原稿) (淨書)			
和二十一年十一月十九日起草			
公 信 案	一部改狀況		

十月三十日附屬送寫第一三四号月報... 基地規設報告、件

0084

第五卷第一司... 基地規設報告、件

May. Sikes to Capt. Brewster

Capt. Sullivan, Lt. Anderson, Lt. Peterson

2d Post Engineer, Maj. Hayes

終戰連絡厚木出張所

0085

城一軍團の Capt. Braker 等との連絡維持に努むる事と爲す。此の
 旨を張りに記す。
 ① Camp 於十月三十日迄に警備隊を以て移動を完了す。之
 ② 第八軍團司令部に別棟が設けられ、未だは約一千九百名が宿舎に約九千名
 とその規模は約四百名に別棟の開設は九月下旬に予定され、御座る。

十月三十一日 Capt. Brown 等が来る。一隊約二百名、二隊約四百名、理定の五百
 名の部隊中心となる。

終戦連絡厚木出張所

0086

終戦連絡の中心となる。Wg. England 等が来る。約四百名、理定の五百
 名の部隊中心となる。

警備隊の中心となる。Wg. England 等が来る。約四百名、理定の五百
 名の部隊中心となる。

終戦連絡の中心となる。Wg. England 等が来る。約四百名、理定の五百
 名の部隊中心となる。

Col. Brown, (Capt. Brown, Red Cross, Capt. Cook, Lt. Col. & Training,
 Capt. Weaver, Lt. Col. Capt. Parrside, Capt. Alder, Capt. Henderson,
 Training, Capt. Weaver, Capt. Brown, Lt. Col. Smith, Lt. Col.
 Stone & Brown & Brown) 等が来る。

終戦連絡厚木出張所

二二二

今日、人員管理の従事者として、事務係の担当者、勤務、労働関係は

管理、反対と、管理、し、また、基地、工作、労働、関係、は、労働、関係、の、

工作、係長 (Capt. Quaker) の、管理、関係、は、労働、関係、の、

労働、関係、の、管理、関係、は、労働、関係、の、

労働、関係、の、管理、関係、は、労働、関係、の、

労働、関係、の、管理、関係、は、労働、関係、の、

終戦連絡厚木出張所

(終戦連絡厚木出張所)

労働、関係、の、管理、関係、は、労働、関係、の、

労働、関係、の、管理、関係、は、労働、関係、の、

労働、関係、の、管理、関係、は、労働、関係、の、

労働、関係、の、管理、関係、は、労働、関係、の、

労働、関係、の、管理、関係、は、労働、関係、の、

労働、関係、の、管理、関係、は、労働、関係、の、

労働、関係、の、管理、関係、は、労働、関係、の、

終戦連絡厚木出張所

烟津山渡は十月三十日午後一時に渡船し、L. Troopと共に渡り、
 上音地渡一、岡田渡は十月三十一日午後一時に渡船し、上音地渡一、岡田渡一、
 木倉渡一、渡船し、上音地渡一、岡田渡一、木倉渡一、渡船し、上音地渡一、
 上音地渡一、岡田渡一、木倉渡一、渡船し、上音地渡一、岡田渡一、木倉渡一、
 十月三十一日午後一時に渡船し、上音地渡一、岡田渡一、木倉渡一、
 渡船し、上音地渡一、岡田渡一、木倉渡一、渡船し、上音地渡一、岡田渡一、
 渡船し、上音地渡一、岡田渡一、木倉渡一、渡船し、上音地渡一、岡田渡一、

終戦連絡厚木出張所

其他

其地

(其地)

旧A-T-C

其地

其地

其地

其地

昭和十九年九月廿日

目次

會計檢査官提書書類

一 總戰處理業務及經理業務機構並其配置人員調

二 聯合軍進露に伴う總戰處理業務一般の経過概要

三 日本銀行假勘定収支現計調(八月三十一日現在)

總戰連絡中央事務局

厚木出張所長 片井重夫

終戰連絡厚木出張所

1) 司令部裏のI号B Buildingに於ける

0094

本館全焼した後のP.O. Capt. Drake 指揮の下
目下復旧の急がしむるが取手は工中との記事は

Japan Army の隊員は少くなく、
P.O. Drake

本館の借りに捜査官を置くこと

自衛隊の。数年前大分、司令部の警備は十二日
司令部の警備は自衛隊に任ずる (C.O. Maj. Liker

隊員は Capt. Smith, Maj. Skelton, Capt. Dean, Capt. Fisher

At Stone, Sgt. Kuntz 自衛隊の隊員は多岐にわたる

自衛隊の隊員は自衛隊の防衛隊員に代表する計
二十名を自衛隊の防衛隊員に任ずる (自衛隊の隊員は

自衛隊の隊員は自衛隊の防衛隊員に任ずる (自衛隊の隊員は
自衛隊の隊員は自衛隊の防衛隊員に任ずる (自衛隊の隊員は

自衛隊の隊員は自衛隊の防衛隊員に任ずる (自衛隊の隊員は
自衛隊の隊員は自衛隊の防衛隊員に任ずる (自衛隊の隊員は

自衛隊の隊員は自衛隊の防衛隊員に任ずる (自衛隊の隊員は

True Guard
True Guard

一 常備兵補充者

(一) 産備関係

(1) 採用 常備者の採用は 職官軍需局よりのお命書による

戦時に依り 常備、日備と区分に於て決定し 常備の時は

常備者

との旨を以て厚木日備

補充に於て採用は

出付に於て 給與の事決せし上 行つて居る。現在迄、常備

者中の大部分は日備立の補充者の轉換したるものと見做すは

終戦連絡厚木出張所

0096

(1) 步兵連長 野島 隆夫 少佐 一平 隆夫 中佐
曹長 三浦 武 少佐 佐藤 隆夫 中佐 十 隆夫 中佐

少佐 佐藤 隆夫 中佐 佐藤 隆夫 中佐 佐藤 隆夫 中佐

佐藤 隆夫 中佐 佐藤 隆夫 中佐 佐藤 隆夫 中佐

C.O., Lt. Col. Buethack, Maj. Sisko, Maj. Edalby,
Maj. M. Laughlin, Capt. Ryan, Capt. ~~...~~
Strout, Capt. Sullivan, Lt. Lt. Orlan...

佐藤 隆夫 中佐

(Lt. Col. Lumbard), Maj. Hopkins, Maj. Bury,
Maj. Powell, Lt. Lt. ~~...~~, Capt. Drake,
Capt. Beaman, Lt. Lt. Shapiro, Lt. Lt.
Wanmaker

佐藤 隆夫 中佐 佐藤 隆夫 中佐 佐藤 隆夫 中佐

佐藤 隆夫 中佐 佐藤 隆夫 中佐 佐藤 隆夫 中佐
佐藤 隆夫 中佐 佐藤 隆夫 中佐 佐藤 隆夫 中佐
佐藤 隆夫 中佐 佐藤 隆夫 中佐 佐藤 隆夫 中佐

終戰連絡厚木出張所

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

0097

吉便

厚連宛書面九封
昭和二十一年十一月十九日



陸軍中央事務局
吉田總裁 殿

終戦連絡中央事務局厚木出張所
所長 今井重夫

基地状況報告の件
十月二十日附厚連宛第三三五號拙信に別し

一 部隊状況

(一) 第五空軍司令部を駐在し居る Lt Col. Mitchell, Lt. H. Paterson を随伴
本月三日北海道千歳に赴任出發した、依て當基地 Com. officer 2, Major Siddle
555 Lt. Col. 1 Lt. Col. Osmond-Roe 他に殘り居る者 2 Capt. Sutherland, Lt. Anderson
Lt. Paterson 他二三名 555 61 2 The Air Service Group of A.C.S. W. Eastern Station
を合々百二十名と過らざる。

但し横田へ移動せる Post Engineer, Sgt. Hayes の持折基地に現はれ彼の管理する
所は厚木、横田、浜松、焼津の四飛行場より第八軍團原の Capt. Drake
兼らるし、管理権は依然空軍が握り居る旨出發し居る。
四. Tank 55 十月三十日を以て横須賀武山へ移動を完了した。
(二) 第八軍團原黑人訓練部隊は本年未だは約二千名、来春以後には約九千名とする
構想がある。而して訓練期間は夫々五週間の予定する趣である。
十月二十日に Capt. Brown を隊長とする隊約二百名の入隊があり、現在約五百名
が訓練中である。
當基地拡張工事にあたる Reg. England の指揮する 43 Engineer Group の本厚は
来春始まる構想があり、従って別組請負工事の滑走路工事も正月より開始せしめる
見がある。
長官軍團原原隊に Lt. Col. Durkan 司令官を筆頭とする外に Training, Reg. Squad
(黑人訓練隊隊長) Capt. Burns, Lt. Col. Capt. Campbell, Lt. Col. Capt. Haggarty
Lt. Col. Capt. Radcliffe, Lt. Col. Capt. Henderson, Capt. Wainwright, Capt. Brown, Lt. Col. Lt. Col.
Kendall, Lt. Lt. Stokes
の外三名が最近迄配属されてきた。
尚現在當基地の管理は依然とて第五空軍にあるものだと未だ正令命令出てる。

為第八軍のA. G. Dunham 中佐と Y. A. S. Replacement Training Center の司令官たる下邊とす
一兩者の間の整頓理由は判然とせず種々の部面に於て権限争ひが發生しを各り
複雑なるものがある。

一 勤務関係状況

第五空軍の移動と共に勤務者過剩は漸次目立ち来り早晚整理を急務とせらる。
状況あるが本月二日 (Wednesday) 司令官の命に依り基地勤務士官の Capt. Down
より現在勤務中の勤務者は過多なるに依り本月十五日を以て軍の員上必要とする
人員を縮減する旨の中へあつた。
分四の武官は遊休勤務者の整理に依り能率的と共第八軍の方針として多分に
請負削減を採りせんとするに甚くものである。分四の整理せらる常備者の数及び
現在遂に判明せる人は九十二名にて現在尚整理進行中で日属勤務者にして
常備的に勤務せしめられたる清掃隊二百名基地工作隊四百名は整理の對象と
して居るが新たに五十名の勤務者もフルにこまらざる可き官軍先遣隊の
仕事に就せしめらるることになった。

分四の人員整理が発表せらるるや常備勤務者は動揺し勤務組合は整理を反對と

要望した。基地工作隊勤務組合は當所係官立合の共工作隊長の意見と
意見整理反對を要望した結果基地工作隊に就ては分四の別(本年)初任と予測せらる
整理を行はふ事より當組合員は分四の整理を受けふ事とあつた。
厚米地之連駐軍要員勤務組合は本月六日本官を来訪(別添甲)を提出し
また本官は極力新職場幹旋の勢を親る旨回答(別添乙)したが十一日再度来訪
し本官の責任を以て乾(連)職場幹旋を要求すると共に解雇一ヶ月延期を申入るた
職場幹旋に付ては縣下の協力も得ず縣内に於て適當幹旋する事とし(後)後
解雇期日付は約一ヶ月延期する事と就き連駐軍當局の了解を反付けた。この
間(兩者共に)就労先を見出すことした。

一 通譯移動状況

組津正度は十月二十日を以て辞職し、三と共武山に移動し、音地重一、岡田春は
十月二十日を以て辞職した。
十月二十日以後新しく採用せる通譯は大平芳美の一名にて現在在員十三名とあつて居る。

一 其の他

(一)基地外に在る旧A.T.C.跡(元海軍高倉三殿)は後續被爆下りす司令官が留せると未だ
引續き使用するが或は大蔵省より引渡すべく付未決定する趣にて最近月組の一部

建物を司令部及大蔵省の了解を得て使用して居る。

東京急行よりA.F.C.前線駅迄土下付運送を依頼越せるに付司令部の了解
取付け十五日より開始した。

駐米基地P.E.別隊の maintenance in region 等の請負工事は駐波組が独占的に行
ったが最近鹿島組反島藤組の之を継承することになった。

司令部裏方のロバート Bunker 等は九月十前五時全焼した依てP.E. Capt. Drake
指揮の下に早復旧を急いで居るが取敢ずL.F.E.の仕事は Japanese
執り多しピストル撃撃校には 砲を備へて投擲せしめて居る。

最近者の如き火多の司令部の主眼で十日警防会議を開催し刑偵空軍別隊C.O.
Major Sikes 兼空軍別隊 Major Skelton, Capt. Dean, Capt. Drake, Lt. Stone, Lt. Kuroki 日本側当所

多田運送官、警務署長、向ヶ丘長警防団、消防署代表等計十三名出席し警防団
(Lt. O'Connell) 又は (Lt. O'Connell) と設置することをその固執は日本側附近で

町警防団より五十八名を要出(之に九月五日交替十三名が二十五時より翌日五時迄勤務し
其地丹を巡邏火災防止と共に盗難防止も行はしめること決定した。団員の給報は

常備として基本給六〇〇圓を支給するものである。

一若くは軍別隊幹部將校も略充定(まいる)を以て當所を正式に歓迎會を辦すること。

十月十五日夜鶴巻温泉に於て空軍別隊、八軍別隊夫々八名を招待盛大なる
歓迎會を行つた。出席者左の通り

第五空軍別隊 C.O. Lt. Col. Nuttall, Major Sikes, Major Anderson, Major MacLaughlin
Capt. Raven, Capt. Culbertson, Capt. Quinn, 1st Lt. Adams,

第八軍別隊 (Lt. Col. Dickson), Major Skelton, Major Bush, Major Fawcett,
Capt. Drake, Capt. Dean, 1st Lt. Skelton, Chief Warrant Officer Warriner.

終運則

司令官長、稲野、多田、吉田各運送官

空軍別隊は着任早々の者多く日本事情に暗く不懂 別運送官より視察を
希望しありたるを以て十月六日東京相模及東京劇場の演劇に案内した。日本
古来の演劇には相當興味を持つて居た。

本信寫送附先 終運播漢事務長

幸便

厚連秘第三號

昭和廿二年一月六日

終戰連絡中央事務局厚木出張所

所長 今井重夫

終戰連絡中央事務局

總裁 吉田 茂 殿

基地狀況報告の件

十月十九日附厚連秘第二四九號拙信に關し、其の後の概況大要左の通り

一部隊狀況

小空軍部隊の移動は一先が終了し第八軍閥係れ其後大した變化はない、副官 *Major* の内話に依るに年末迄二千名の G.I (内白人百名) 九十名の士官來着の豫定であつたが

外務省

多少変更され今週中に G.I 黒人は百名、白人百八十名、士官四十名到着の由である

G.I. *Parat Co.* 轉出の跡に十月十七日 *609 Parat Co.* が來駐、*608 Parat Co.* も近く到着の筈

①當飛行場新滑走路工事施行命令は十月十四日附司令部部令第八軍に對し發出され本年一月一日より開始の豫定があつたが、鹿屋飛行場を先にすることとなり三月下旬迄延期されることとなつた模様で、綾瀬町深谷地區の土地接收十三戸の立退も暫らく延期となつた

②十二月一日黒人訓練部隊の卒業式が *Woods* 隊長 *Woods* 中將他大佐数名臨席の許に舉行せられた、當日は *Woods* 中將が中將臨席の豫定であつたが都合に依り延引し四日に來厚視察した *Major* *Shaw* の談に依るに約半数は不合

外務省

格となり思人訓練には全く持て餘し居る由である尚本訓練は本春二三月頃にて中止となるかも知れずとのことである

(二)空軍関係は *Ady. Capt. Quasthoff* 及び *P. E. Lt. Branson* 共に十二月上旬横田に轉じ *Capt. Sullivan* は同十八日干歳に赴いて現在第五空軍司令官即ち基地司令官たる *May. Lt. Col. G. I. Smith* となるものと見られる但し第八軍の訓練終れば再び空軍漸次戻すべしと横田に轉じたる *May. Lt. Col. Smith* は談つて居る

一、勞務狀況

(1) 整理問題

十月中旬基地内就勞者の第一次整理行はれ一應の落着きを見えが十月三十日に至り勞務士官 *Capt. G. Smith* より司

外務省

令官の命に依る趣を以て更に二五割整理方内報を受けたる今回第二次の整理はマ總司令部より通牒に基き第八軍司令官の指令に依る *Col. Sanderson* の命令にして無條件的に整理を断行せんとするものにして當基地に於ては一應 *Wagon* 関係のみ行はんとするわけである整理の内報を受け當所は直ちに全勞務者の名簿を作成し司令官に提出したる司令官は直接各職場を視察し常備日備を含め二五割より五割の整理人員表を割当て來つたのである現在當基地は部隊移動のため就勞人員の過剩は事實なるも司令官提案の整理人員を無條件に甘受するときは職場に依りては到底職務を遂行し得ない結果となりその後事態に責任を負ひ難く且先般師訓令の雇傭関係の確立の趣旨の真よりも司令官提案の人員をその儘受け

外務省

容れられない理由を與へて緩和方申入れると共に勞務士官と協議し、箇の整理に當つては當所に一任し、當方に於て各職の実情を調査し決定するに打合せ直ちに人選に着手し各職場の実情に應じ人選を大体二五割の線に沿ひ決定提案したか司令官は自己の案を軍主張し來り折合つかず交渉を續ける間に整理の範圍を更に擴大し來り通譯の半減女子就勞者の全面的整理に迫立到り幾分感情問題に走つた傾向の見受けらるに至つたので當所も人選に再検討を加へ常備日傭を含め約二九〇名の整理者を通報すると共に年末年始を控へたる際として一日にても餓首の時期を延期する様考慮を促し置き、他方空軍關係は獨自の立場に在り整理の意図なく寧ろ道に基地司令官たる *May Stokes* より空軍關係職場たる *Salvage Yard* (基地

外務省

内清掃及破壊飛行機の處理)に收容する旨の申出あり解職者の大部分は之に轉職し得る豫定であり既に現在職場の無くなつた *Qui Corps Supply, B.O. O. Quonast Force* 關係の約一〇〇名は轉職中であるが整理者中の技能者等にあつては轉職は不可能にして退職は不可避と豫想せられる次第である。

尚今後整理の行はるべきことは司令官の態度等より豫想せらるる處であるが當地の如き他に轉職せしめる餘地なき處では餓首者の就職斡旋は頗る困難し現在でも第一次整理の際の餓首者の就職斡旋には苦慮して居り横濱等へ轉職せしめべく縣廳とも連絡中であるか何分にも交通不便なる現状にあつては意の如くならず決定を遅延し居るに有様である。先般中央御訓令の雇傭關係の明確化も一應軍

外務省

局に申入れたるも現在の立場に於て聯合軍より強行せらるゝ時は如何ともなし難い所である

日労働組合の動向

現下世上の労働攻勢の余波は當地にも及び来り産別系の厚木地区進駐軍要員労働組合は相当活潑な動きを見せ居り先般来昇給問題に就き最高二百円より最低五十円の昇給を要求すると共に賃銀基準表の改訂を持ち込み來つた。前者に就ては六月以上昇給の行はれなかつたのを前提として要求し来りたるものであるが後者は横須賀に於て中央の許可の下に設定し既に實施し居り稱する新基準表を呈示し採用方を迫り居り有様である。神奈川県下終連として労働関係を掌握し居り唯一の機関たる當所として横濱、横須賀の如き縣下管下に比較する時は種々の面に於て

外務省

制約せられ相当なる開きある應酬を余儀なくせしめられ地區要員労働組はこの間のギャップを以て縣下他地區との不均衡を口實に交渉し来る有様である。本地区要員労働組は常に不當なる要求をするのが常であつて十二月十二日、令十八日及令二十三日の三回に涉りて要求書を提出し同二十六日には百數十名赤旗、プラカードを押立てデモ行進を行ひ当事務所を取巻き氣勢を揚げ即時回答を迫る等のことがあつた。要細は十二月分労働月報を以て御報告に及びべきも兎角幹部が東京の関東地區組合本部の應援を頼りて組合員の意嚮とは無關係に幹部が動く傾向あり時局便乗の気配が強く穩當を欠くと思はる。二、三の幹部の動向には常に注意し居る。

總同盟系たる厚木基地労働組と産別系たる厚木地區要員

外務省

労組との対立は當地の如き他と隔絶せる土地に於ては兎角複雑、混乱なる問題を派生せしめ勝ちでこれに組合非加入者を加へ均衡する取扱いも困難を感じせしめて居るの之を合同せしめんとして居るか兩幹部に於て感情的對立の爲目先不能の状態である。

ハ 基地労務協議會開催の件

中央と全國進駐軍労働組合同盟との間に十月六日締結せられた團體協約及労務協議會規定に基き加盟労組たる厚木基地工作労働組合との間に十二月七日基地労務協議會を設置した。政府機関委員は本官以下四名、労組委員は加藤組合長以下四名の十名を以て構成した。十二月七日第一回會合を開催、労務協議會の運営方法、議題等に関し打合せを上四項目より成る要求事項呈示され

外務省

たが終始協調的であつた。當労組としては種々の要求等も成可く本協議會にかけ圓滿なる解決を計り左き旨意見の關陳あり今後共本組合との關係は圓滿なる推移を見るものと期待せらる。次第である。更に今回の整理問題起るや第二回協議會を十二月十四日開催し組合員の鼠首者を決定すると共に種々懇談を行つた。

一 通譯移動状況

基地内労働者の整理の波は通譯にも及び約半数の二十名を殘し他を整理方司令官より命ぜられたるが當基地の如き職場数四十余にして係りも分散しおる土地柄到底二十名を以てしては用を便し難きを以て第五空軍關係が整理対象とならないので第五空軍關係者を除き第八軍關係

外務省

者より九名前後を整理し以て解決を計る豫定がある。
 尚整理の對象者は現在の優英語の技能程度勤務状況等より岡十兵衛、山本恵太郎、矢島喜三郎、大竹隆雄、水野久三郎、金原不二男、柏田龍亮、石坂義雄、警務官佐原春一の十名を考慮して居る。
 尚先般東全通譯に對し技能試験を行つたが全般的に成績芳しからず「カナダ」帰りの二世は優秀なるを以て全般に亘り給與の適正化を考慮して居る。
 森本正五十二月五日附退職せしめ(相模原/28 Station Newfieldに就勞方轉旋あり)高橋篤を十二月九日より採用した。富岡孝もパス偽造の簿を以て退職せしむるの已むなきに至つたので座間(名 *Rehacement Depot*)に就勞方轉旋せしむ。
 一其他

外務省

のPDに依る工事は島藤組が基地内道路の修理、兵舎の修築を勞務者二百名を使用十二月初旬より開始。鹿島組も同様勞務者百名を使用兵舎修築に當つて居る。間組は滑走路工事のPD未だ正式に發出されず待機の姿勢に在る。回基地がハーフは當所轉旋にて從來附近四ヶ所農業會に於て一括管理し來れる。最近横須賀馬淵組關係より劃運勤あり紛糾して居るが本官及伊藤警察署長仲介の勞を執り割當を決めて妥協成立した。
 十一月末警防團結成せる後各所に小火發生するを以て十一月二十七日以來再三深夜防火演習を行ひ *May Shogun* 各部隊を巡回防火講演を爲す等努力し成績漸次良好となりたるを以て十二月十二日夜鶴巻に於て當所主催慰勞會を催した。出席者 *RM 側 May, Grand, St. Stone, 司令部*

外務省


11

側 *Mr. Shorter, Capt. Dean* 警察側 伊藤署長

古川警部 當所本官及多田連録官

(二) 基地司令部士官室より日本舞踊を觀賞したき希望あり仍乙土月二十七日夜本官官舎に於て日本舞踊の会を催し充分歡を盡し盛會裡に散會した。

本信寫送附先 横浜事務局長

多田 運送局長
 新


文書課長

文書課發送日

管主

機密 第三

號

昭和二年五月六日附

附屬

任主

淨書

正校 (原稿)

昭和二年五月六日附 附屬

0117

發信用執務用		主信		附屬		備考	
		甲	乙	丙	丁		
公文書案		先付送寫		名人信受		管主	
十一日十九日附原運送料第三四九號掛信に關し 之の如く收迄士要厄等二通 外務省		横濱事務局 基地狀況報告の件		中央事務局 克田 總裁		昭和二年五月六日附 附屬 今井 少長	
		名人信發		名人信受		管主	

2

一 高松收迄

(1) 高松の初動は一定の長は自由保しを大に變化はなし
 (副官 Capt. Sean の如くは) 最近二年名の G.I. (白人百戦) 九十九
 九十九名 最近二年名の G.I. (白人百戦) 九十九
 G.I. Post Co. 最近二年名の G.I. (白人百戦) 九十九
 九十九名 最近二年名の G.I. (白人百戦) 九十九

(2) 高松の初動は一定の長は自由保しを大に變化はなし
 (副官 Capt. Sean の如くは) 最近二年名の G.I. (白人百戦) 九十九
 九十九名 最近二年名の G.I. (白人百戦) 九十九
 G.I. Post Co. 最近二年名の G.I. (白人百戦) 九十九
 九十九名 最近二年名の G.I. (白人百戦) 九十九

(3) 高松の初動は一定の長は自由保しを大に變化はなし
 (副官 Capt. Sean の如くは) 最近二年名の G.I. (白人百戦) 九十九
 九十九名 最近二年名の G.I. (白人百戦) 九十九
 G.I. Post Co. 最近二年名の G.I. (白人百戦) 九十九
 九十九名 最近二年名の G.I. (白人百戦) 九十九

(4) 高松の初動は一定の長は自由保しを大に變化はなし
 (副官 Capt. Sean の如くは) 最近二年名の G.I. (白人百戦) 九十九
 九十九名 最近二年名の G.I. (白人百戦) 九十九
 G.I. Post Co. 最近二年名の G.I. (白人百戦) 九十九
 九十九名 最近二年名の G.I. (白人百戦) 九十九

終戦連絡厚本出張所

0118

中將...
 Major...
 Capt. Sullivan
 Lt. Col.
 Major...
 Major...
 Major...

終戦連絡厚木出張所

0120

3

一等務...
 中...
 十一日...
 十一日...
 更に...
 次...
 指令...
 理...

終戦連絡厚木出張所

0119

行はんとす。ありのあり。整理の内報を交付せしむ。全方部長、
 此の簿を作成し司令官に提出し、司令官は若職~~場~~場~~に~~就~~き~~
 常備の日備を乞ふ
 二、中五割より三割。整理人員表を割る。来た。りあり。現在在基地
 効力人員の過利は事實~~は~~は~~ず~~は~~ず~~司令官に提出す
 整理人員と無条件に甘受するに付、は未職場~~に~~に~~て~~に~~て~~底職務を
 遂行し得る結果とあり備~~は~~は~~ず~~は~~ず~~後の事態に責任を~~負~~負~~ふ~~
 難く且未職場~~に~~に~~て~~に~~て~~御訓令の應備關係、確立の趣旨の莫より也

終戦連絡厚木出張所

司令官提議、人員を~~中~~中~~に~~に~~て~~に~~て~~受け入れらるる~~は~~は~~ず~~は~~ず~~給和方申入との共に
 此方部長との協議、今回の整理に當るは~~中~~中~~に~~に~~て~~に~~て~~一任し前方に於て各職の
 実情を調査し決定するに打合せ直ちに人員選に着手し若職場の
 実情に應じらるる~~は~~は~~ず~~は~~ず~~人員選の線に沿ひ決定提議せらるる
 司令部は自己の案を主張し、折合つかず、突合と維持の間に
 整理の範圍を拡大し、より通譯~~を~~を~~し~~し、半減~~を~~を~~し~~し、女子寮~~を~~を~~も~~も~~ろ~~ろの
 全面的整理に迄立到り、幾分感情問題に走つて傾向の見え

終戦連絡厚木出張所

収められた

何れにも不便な現況、如何なる決定も見えない

仰る。先般中央師団令の催拂関係の明確化、~~陸軍省~~

申上る。現在の立場に於て、陸軍より進行せざる時は如何

と云ふし難い所である

(中) 御
の方針、動向

現下世上の労働攻勢の次第は如何、~~中央~~に及ぶ産別

、一月末迄の進駐軍要員の動向等は相対活潑な動きを見せ

終戦連絡厚木出張所

度、先般~~中央~~問題に就き最高二百円より最低五十円の日

給を要求せられたに、信託銀基準を改訂と持ち込みました。前

者に就ては六十円以上日給の行はれなかつたこと、所望として要示し

ました。この点、本一月は未だ~~未だ~~の返答はなされておらず、

運動、~~行はれ~~、~~見られ~~、~~後者は横須賀に於て~~

中央の許可の下に、~~新基準~~と目下採用の~~通り~~

度、~~有~~、~~神奈川~~、~~下~~、~~終~~、~~連~~、~~と~~、~~労~~、~~務~~、~~団~~、~~体~~、~~と~~、~~密~~、~~接~~、~~し~~、~~な~~、~~る~~

終戦連絡厚木出張所